

【発行】
 自治労渡島地方本部
 執行委員長 川村 哲也
 〒041-0806
 函館市美原 4-6-16
 TEL 0138-34-2357
 FAX 0138-34-2358

自治労 渡島地方本部ニュース

やめるべ、大間原発！ 10.29 北海道集会

やめるべ大間 やめるべ原発



10月29日、函館市千代台運動公園広場で北海道平和フォーラム・道南地区平和フォーラム・「脱原発・クリーンエネルギー」市民の会主催の、「やめるべ、大間原発！北海道集会」が開かれ、公園には約1千5百人が集まりました。主催者を代表し北海道フォーラム山田代表のあいさつしました。道南地域フォーラム相澤代表は、「大間で事故が起これば、函館まで距離は30㎞、風速が2mで放射



物質は4時間で函館に到達する」。また、逢坂誠二衆議院議員からは「原子力政策には大きな転換が必要。しかし、多くの関係する方々、地域への理解がなければ政策の転換はできない。粘り強く取り組みを進め、政策を変化させていくべきである」とあいさつした。

道南地区平和フォーラム扇谷副代表からは、フォーラムの活動内容と取組みについて報告し、福島県平和運動フォーラム・中路良一さんは、福島の現状について、



放射能と向き合いながらの生活や、実際に職を失い、住む場所を追われ、福島を出ていかざる得ない状況になったこと、さらに、「いつ故郷に戻れるのか今でも不安が一杯だ。一日も早い原発事故が収束することを願っている。今後も皆さんのご支援とご協力をお願いしたい」と連帯のあいさつをしました。

大間訴訟の会代表、竹田とし子さんは「人間と原子力は共存できません」と何年もかけて訴え続けてきたことを強調しました。



青森県平和推進労働組合会議、佐藤亮一元町議には、これまでの大間立地の件から今日までの経緯について、原発立地に揺れた住民や国の政策に翻弄され続けてきた経過について説明しました。

最後に、「大間原発の建設中止」を訴える集会アピールを宣言し、デモ行進で「原発をなくそう」と、市民にアピールしました。



デモ行進の様子

集会アピール（案）

3月11日の東日本大震災で被害を受けた福島第一原子力発電所では、大量の放射能が今も漏れ続ける原子力史上最悪の事故となりました。

放射能の汚染は今も広範囲に広がっています。そして、放射線は、未来を生きるこどもたちを生命の危険にさらしています。

経済優先の中で原発政策を推進し、安全性をないがしろにされてきたことが今回の事故となりました。福島第一原発の事故は人災に他なりません。福島原発事故で日本の原発の「安全神話」は崩れました。

私たちの命と暮らしを守るために、今こそ、原子力中心のエネルギー政策から、風力や太陽光など再生可能な自然エネルギー中心の政策へと転換しなければなりません。そのためにもわたくしたちは訴えましょう。

大間原発の建設を中止しよう！

泊原発をやめさせよ！

こどもたちを放射能から守ろう！

そして、全ての原発をなくそう！

さようなら原発！

今、集会に全道各地からお集まりいただき、ありがとうございました。